

オーストラリア市場レポート

豪州株式市場の足元の状況と今後の見通し

- 足元で豪州株の軟調地合いが続く。世界的株安や米・中の政策的不透明感から投資家のリスク回避姿勢が強まる。
- 豪州株式市場では資源セクターと非資源セクターで二極化の傾向。内需拡大が非資源セクターの企業収益改善に寄与。
- 豪州株の配当利回りは5%台へ上昇。高水準の配当利回りが海外投資家による豪州株への見直し要因となる可能性。
- 豪年金基金の豪州株への資金流入は安定維持。世界経済の不透明感が解消すれば、豪州株への追加投資余地も。

リスク回避姿勢の強まりから軟調地合いの豪州株

2015年8月以降、豪州株式の軟調な地合いが続いています。主要株価指数のS&P/ASX200指数は2015年4月27日に5,983ポイントの年初来高値を付けた後、9月29日には一時5,000ポイント割れの水準まで下落しました。足元での豪州株の調整は、豪州企業の収益見通しの悪化が原因というよりは、世界的な株安連鎖や米国・中国当局の政策的な不透明感から投資家のリスク回避姿勢が強まったことが背景にあると考えられます。

実際、S&P/ASX200指数の12カ月先予想PERは2015年4月27日の17.38倍をピークに、足元では14倍前後まで低下しており、市場参加者の慎重姿勢が株価のバリュエーション低下にも現れています(図1)。

非資源セクターがけん引役となる豪州株式市場

一方、近年の豪州株式市場では、資源セクターと非資源セクターの間で株価の二極化傾向が顕著です。中国景気の減速や資源価格低迷などの影響から、資源セクターでは株価の下落基調が続いている半面、2012年頃から主に金融株や内需関連株などの非資源セクターの株価は底堅い推移が続いています(図2)。

豪州株式市場のけん引役が資源セクターから非資源セクターへ移行が進んでいることは、基調的に豪州株が「中国離れ」しつつあることのひとつの証左と考えられます。

豪州株式市場では非資源株の存在感高まる

また、企業収益の面でも、非資源セクターが豪州企業の収益を押し上げる傾向が明らかです。資源セクターでは中国の資源需要の動向や資源価格低迷などの要因に左右され収益の変動性が増している一方、非資源セクターでは豪州の内需拡大に支えられ、安定した企業収益の改善傾向が続いています(図3)。非資源セクターの2015年および2016年の一株当たり利益は、それぞれ前年比+20.5%および+5.7%の増益が予想されています。

図1: 豪州株と予想株価収益率(PER)の推移



図2: 豪州のセクター別株価の推移

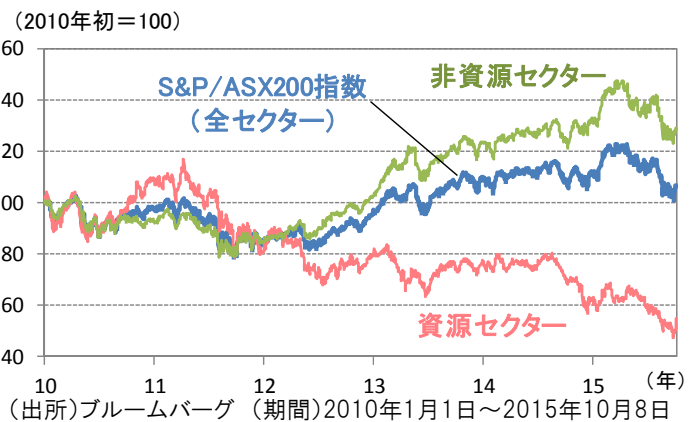
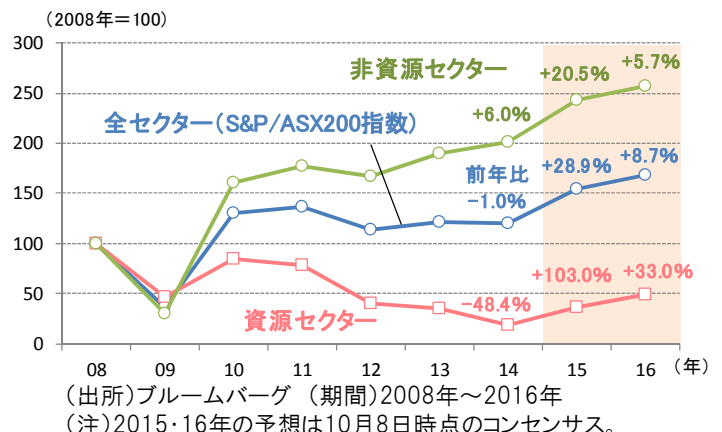


図3: 豪州のセクター別一株当たり利益見通し



●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、レグ・メイソン・アセット・マネジメントの情報を基に、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

オーストラリア市場レポート

豪州株は配当利回り面での割安感が増す

足元での株価下落を受けて、豪州株(S&P/ASX200指数)の予想配当利回りは5%台へ上昇しています。豪10年国債利回りが2%台後半へ低下していることから、債券との比較の面でも豪州株は配当利回り面での割安感が増していると考えられます(図4)。

配当利回りが豪州株の見直し要因となる可能性

また、こうした豪州株の高い配当利回りは、海外投資家による豪州株への見直し要因となる可能性があります。

図5は海外投資家の豪州株への投資動向と豪州株の配当利回りの推移を示したものです。過去の局面では2008～2009年や2011～2012年など、低下する長期金利に対して配当利回りの投資魅力が高まる局面で海外投資家の豪州株への資金流入が拡大する傾向がみられました。

2015年は1-6月の海外投資家による豪州株への純資金流入額は+126億豪ドル(約1兆円*)となり、2014年(通年で+117億豪ドル)を大きく上回るペースで資金流入が拡大しています。2015年下半期以降も、配当利回りに着目した海外投資家の資金流入の継続が期待されます。

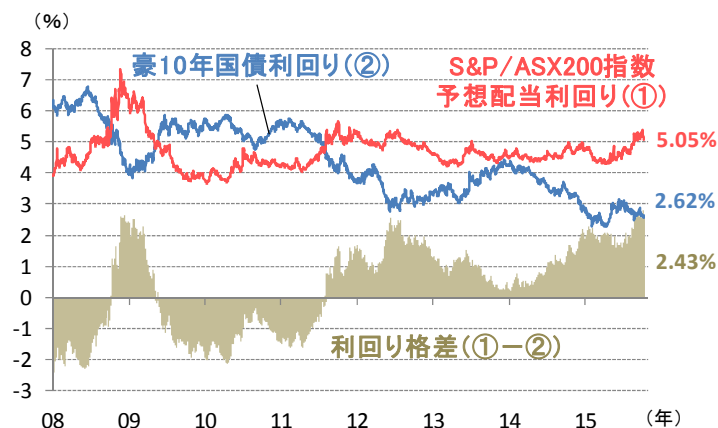
豪年金基金の資金流入も豪州株の下支え役に

一方、豪州の国内投資家では、年金基金(スーパーアニュエーション)からの資金流入も継続的な豪州株の下支え役となると考えられます。

2015年1-6月期の豪年金基金による豪州株への投資額は+160億豪ドル(年率換算で320億豪ドル)となり、2010年より安定した豪州株への資金流入傾向が続いています(図6)。

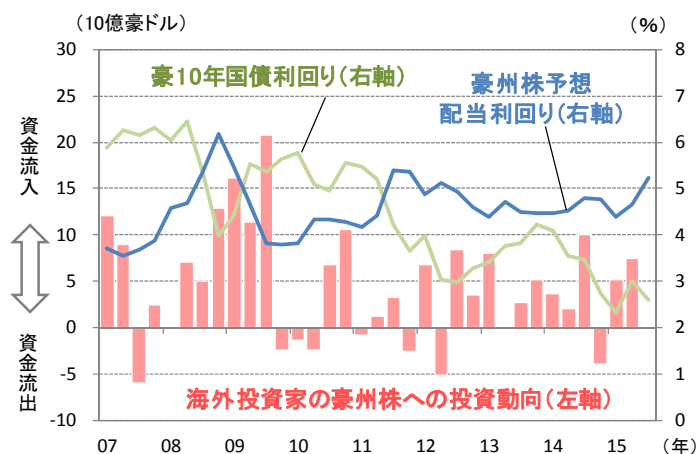
2015年6月末時点の豪年金基金の総資産1.9兆豪ドル(約160兆円*)のうち、豪州株への投資比率は38.1%を占めています。一方、豪年金基金の総資産に占める預金の比率も13.9%となお高水準にあることから、世界経済の不透明感が解消に向かえば、豪年金基金は豪州株などのリスク性資産への投資を拡大させる余地を依然として残していると考えられます。

図4:豪州株の配当利回りと豪10年国債利回りの比較



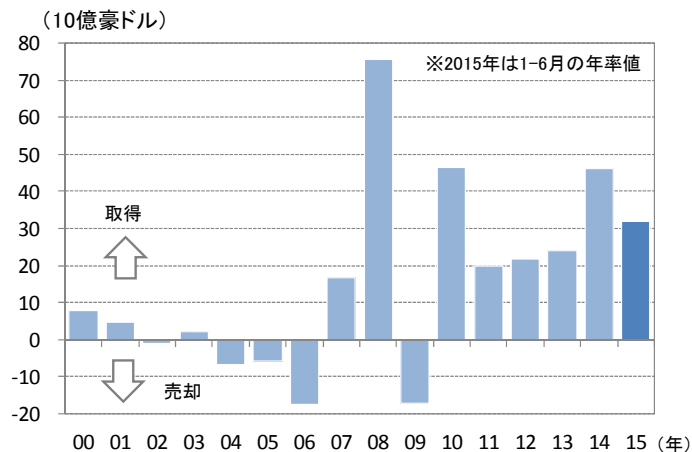
(出所)ブルームバーグ (期間)2008年1月1日～2015年10月8日

図5:海外投資家による豪州株への投資動向



(出所)ABS、ブルームバーグ
(期間)海外投資家の投資動向:2007年1-3月～2015年4-6月
利回り:2007年3月末～2015年9月末
(注)豪州株はS&P/ASX200指数。

図6:豪年金基金による豪州株式への投資動向



(出所)ABS (期間)2000年～2015年1-6月

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、レッグ・メイソン・アセット・マネジメントの情報を基に、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。